

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 3 年 5 月 13 日

事業所名 音楽療法センター コスモス・キッズ

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	0%		
	2 職員の配置数は適切である	100%	0%	0%		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	88%	13%	0%		まだまだ改善の余地があると認識している。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	88%	13%	0%		非常勤職員が多く参加出来ない場合もあるが、情報共有が出来るよう調整していきたい。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%		
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	88%	13%	0%		ホームページ掲載している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	63%	13%	25%	・今はコロナ禍でできていないが202年度は機会を作りたい。	コロナ禍で実施できていないが、状況を見ながら機会を作りたい。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	88%	13%	0%	・オンライン研修など可能な研修を受講している。 ・今年はコロナ感染症対策のため例年より少なかった。オンラインで参加する等工夫している。	毎年実施されていた民間の研修も減っているが、オンライン研修などの受講を進めたい。
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%		
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	88%	13%	0%		職員に周知を図っていきたい。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	88%	13%	0%		職員同士コミュニケーションを取りながら立案している。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%		
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	50%	50%	0%	・ニーズに合わせて行っている。	その時の状況に応じて、課題や活動内容を設定している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%		
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%		
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	75%	25%	0%	・その日中にできない時はあるが、気になったことなどを話す時間を作っている。	当日中に振り返りの時間を持ち、次回の支援方法を共有していく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%		
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%			

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	88%	0%	0%		職員への周知を徹底させていきたい。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	63%	38%	0%	・相談支援やコーディネーターの方を介して連携している。	送迎は行っていないが、保護者の方から学校の予定などを聞いて調整をしている。相談支援やコーディネーターの方を介して学校と連携している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	38%	38%	13%	・医療的ケアは行っていない。	医療ケアが必要な子どもの支援は行っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	38%	63%	0%	・相談支援やコーディネーターの方を介して連携している。	担当者会議や電話などで連絡を取り合い連携を図っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	50%	50%	0%	・情報を伝えていきたい。	情報提供に努めていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	0%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	13%	38%	50%	・コロナ禍でできていない。 ・今はしていない。	以前はクリスマス会等イベントを積極的に開催していた。現在コロナ禍で機会を作ることが難しいが、状況を見ながら検討していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	38%	0%	38%	・コロナ禍でできていない。	コロナ禍で機会が少ないが、機会を見つけて参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	63%	13%	25%	・コロナ禍でできていない。 ・今後行っていきたい。	以前は、ママ・パパクラブで機会を作っていたが、現在コロナ禍で集まる機会が作れていない。オンラインでの開催を検討していきたい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	63%	38%	0%	・集まる機会を作りにくい状況なので情報を共有できるノートを活用している。	以前は、ママ・パパクラブで機会を作っていたが、現在コロナ禍で集まる機会が作れていない。オンラインでの開催を検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%		

非常時等の対応	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	13%	38%	・コロナ禍でできていない。	・コロナ禍が収まったら、検討していきたい。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	88%	13%	0%		マニュアルを作成し、職員や保護者への周知に努めている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	88%	0%	13%		年に数回、職員全体で訓練を行う機会を作っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	50%	38%	0%		大阪府の研修などを積極的に受講している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	75%	13%	0%		保護者同伴通所で、同室しない場合でもカメラで可視化している。状況に応じて保護者の了解を得た上で対応しているので支援計画には記載していない。
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	13%	25%	50%	・食事支援は行っていない。	食事の提供は行わない。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%			